

「第 21 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 5 年 7 月 4 日（火） 10:00～12:00

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

1 出席者

1	岡 浩一朗（学識経験者）	11	高橋 美由紀（生涯学習スポーツ課長）
2	小倉 利彦（区体育協会）※代理出席	12	神崎 章（新宿未来創造財団等担当課長）
3	金子 和子（区レクリエーション協会）	13	渡辺 隆介（障害者福祉課長）
4	田中 稔（区町会連合会）	14	袴田 雅夫（地域包括ケア推進課長）
5	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	15	徳永 創（子ども家庭課長）
6	武内 隆則（区小学校 PTA 連合会）	16	向 隆志（健康政策課長）
7	石原 留理（区中学校 PTA 協議会）	17	小菅 健嗣（みどり公園課長）
8	下村 扶美子（公募委員）	18	齊藤 正之（教育調整課長）
9	南 滋文（公募委員）		
10	西谷 毅（スポーツ関連事業者）		

欠席者 5 名

今泉 清隆（区体育協会）※代理出席あり

橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）

藤原 千里（区障害者団体連絡協議会）

藤塚 利男（区青少年育成委員会）

加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）

机上配付資料

資料 1 新宿区スポーツ環境調査の実施について

資料 2 令和 5 年度 スポーツ環境調査 設問一覧

資料 3～6 各調査票（案）

・「新宿区スポーツ環境調査」に関して新宿区障害者団体連絡協議会代表 藤原委員からいただいたご意見

・全国車いすハンドボール大会（車いすハンドボール体験会） チラシ

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会 <次第1>

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ <次第2>

本日はお忙しい中、スポーツ環境会議にご出席いただき、感謝申し上げます。スポーツの最近の話題としては、車いすテニスでは小田凱人選手が世界ランキング1位になったり、車いすラグビーでは、日本がパリパラリンピックの出場権を獲得したという嬉しい話題が続いた。新宿区では、車いすハンドボールの体験会を7月23日に予定している。全国大会もあわせて行うことになっており、車いす競技に触れる機会になると思うので、ぜひご参加いただきたい。本日はよろしく願いいたします。

(3) 前回欠席委員、代理出席委員 自己紹介

(4) スポーツ環境整備方針の改定について <次第3>

・生涯学習スポーツ課より資料説明 資料1～6

質疑応答

【調査全体について】

南委員

各調査票について、運動やスポーツの定義が書かれているが、質問項目のなかで「運動やスポーツ」と併記されている項目と、「スポーツ」だけの項目がある。定義に従って、併記したほうが良いものがあるため、再度確認されたほうが良い。例えば、団体向け調査の問13「どのようなスポーツ指導者が認められているとお考えですか」については、軽い運動ということではなく、特にスポーツに特化して質問が展開されていると思う。また、施設利用者調査の問8では、「現在の運動やスポーツへの取り組みについて最も近いのはどれですか？」となっているが、問9では、「今後行ってみたいスポーツがありましたら」と、「運動」が抜けている。この項目については、スポーツだけではなくて、軽度な運動ということも取り入れたらどうかと思う。

生涯学習スポーツ課長

ご指摘いただいた設問も含め、「運動」と「スポーツ」の使い分けについては、もう一度全項目確認する。

【スポーツ意識調査について】

南委員

スポーツ意識調査（18歳以上）の問13では、区が運営している施設を指すのか、区が運営していないものも含まれるのか、回答に迷うと思った。また、区外で運動やスポーツをしたときには、選択肢を選ばなくなるので、区民が区内外に限らず運動やスポーツをしているのであれば、「区内の」の文言を外しても良いのかなと思った。ただ、前回も聞いている質問で変化を見るということであれば、「区内の」は入れた方が良くとも思うので確認したい。

生涯学習スポーツ課長

南委員がおっしゃるとおり、前回調査との差を見ていくため、同じ質問で「区内」に限定させていただく。区外でのスポーツについては、例えば、問 15【その他】どのスポーツをしたかという質問において、区外ではないとできない登山、ハイキング、釣り、キャンプ、スキー、スノーボードといったものがあるため、そこで結果をみることもできるかと思う。ただし、質問として区の運営施設か、それ以外も含むかは、分かりにくいと思うので補記をしたい。

区体育協会

子どもの意識調査の中で、部活動に触れていないが、子ども達にとって、特に中学生の部活動はスポーツに触れられる一番大きな接点だと思う。現在、部活動については民間の指導員を導入する計画を立てていただいていると思うが、なかなか先に進んでないような状況である。この調査で触れないのは、何か意図があるのかお聞きしたい。

生涯学習スポーツ課長

今回の調査については、「学校の体育の授業は除く」と記載しており、部活動は、現在はまだ学校の活動の一環であると考えている。子どもたちが学校を卒業した後、そこから先のスポーツ活動につながりにくいという現状もあるため、学校以外の場でこういった形でスポーツを継続していけるのかを、今回の質問の中では中心に聞いていきたいと思っている。

区体育協会

そういった考え方もあるかと思うが、一方で、部活動でのスポーツに触れ合う機会は、小学生、中学生から先に、スポーツをやっていくかどうかを決めるにあたり、重要な意思決定をするところではないかと思っており、個人的な意見としては、部活動も入れていただきたい。

生涯学習スポーツ課長

部活動については、検討させていただく。

区中学校 PTA 協議会

子どもの調査対象について、小学 5 年生と中学 2 年生であるということだが、どのような意図があるのかお伺いしたい。

生涯学習スポーツ課長

小学 6 年生と中学 3 年生だと、受験の年齢ということもある。また教育委員会でも小学 5 年生と中学 2 年生で、体力調査をしていると聞いているため、合わせて小学 5 年生と中学 2 年生とした。

区中学校 PTA 協議会

小倉委員と同様に、部活動の時間は、中学校の生徒においては非常にウエイトを占めている。また、

新宿区の中学校の子どもたちは、他区に比べて体力が少ないという調査結果がある。うちの中学校は生徒会主導で、初めてドッチビー大会を実施し体力向上を目指している。学校内の時間の方が圧倒的に多いため、そこも踏まえた子どもたちの意識調査ができると良い。

生涯学習スポーツ課長

スポーツ環境整備方針の中で、今後施策に反映していくものを検討する目的で、今回の調査を実施する。そのため、学校内の活動も非常に重要だと考えているが、実際にスポーツ施策として検討する際に、なかなか学校内での活動について施策として反映できるものが少ないと思っている。繰り返しになるが、基本的に子どもたちが学校を卒業しても、スポーツを継続してやれる環境づくりのために何が必要なのかという視点から、今回調査を実施していきたい。ただ、ご質問いただいたとおり、今の活動状況についても把握したいと思っており、実際に子どもたちが学校以外のところでどのように活動をしているのか等、そういった視点が必要であると思うので、検討させていただきたい。

下村委員

子ども向け調査について、選択制の質問が基本的なスタイルだと思うが、例えば、「あなたが夢中になっているスポーツは何ですか？」とか、実際、今取り組んでいて何が楽しいかを聞く設問があってもいいのかと思う。子どもたちは私達から見えない SNS などでのいろいろな情報を持っているため、何のスポーツをやっているかということも大事だが、どういう楽しめるスポーツに出会えるかというのが人生の中ですごく大切だと思うので、子どもたちから逆に情報をもらうような設問があると、今後の子どもたちのスポーツ環境の構築のために良いと思う。

生涯学習スポーツ課長

どういったスポーツをやっているかという調査項目はあるが、楽しさといった部分は弱いと思うので、自由記載の項目を追加するなどの対応ができるか、設問数にも制限があるため、検討させていただきたい。

【団体向け調査について】

区高齢者クラブ連合会

高齢者は行動範囲がすごく狭い。その近くに運動施設や遊ぶ施設がないと、遠いから行きたくないと言う人が多い。高齢者クラブではグラウンドゴルフと輪投げを中心にやっているが、グラウンドゴルフも広い広場でやっても、近くでなければやらない。高齢者の場合は、積極性がなくなっており、いろいろな意見を聞いても、私のところは近くに何も無いと言われるケースが多い。学校を借りたらどうかと言っても、そんな面倒くさいのは嫌と言われる。この現状をどう解決するかが課題である。

生涯学習スポーツ課長

学校施設については、地域に万遍なくあり、学校開放事業もやっているなので、そういったところを活用していただけるといいと思うが、手続きが面倒であるという部分については、財団の方で申請等も受けているので、丁寧にご説明させていただき、活用していただければと思うので、個別にご相談をして

いただきたい。

【施設利用者向け調査について】

スポーツ関連事業者

施設側としては、この調査票の内容で細かく書かれているので、十分だと思う。

区体育協会

今回調査の対象となるのは、4つの施設利用者ということだが、屋外施設を利用している方への調査は今回行わないのか。

生涯学習スポーツ課長

この4施設に調査員を派遣して調査を実施する。屋外施設については、登録団体として、団体向け調査の方で意見を拾えると思っている。施設に関する評価については、団体調査の方にも載せてあるので、そちらの方でご回答いただけるものと考えている。

下村委員

団体向け調査の問14でスポーツ施設の利用状況に区内施設の記載があるが、区内で使える施設について初めて知った場所もあった。新宿スポーツセンターとか新宿コズミックスポーツセンターは分かるが、例えば江戸川河川敷グラウンドも使えることを今初めて見て驚いた。スポーツ意識調査の18歳以上の方たちに、施設の認知度について質問をするのは大事かと思う。施設はあるけれど、使う側が知らなければ、そこにマッチングすることはないので、調査の結果、認知度が全くない施設があったら、その施設をアピールすることで今後利用する区民が増えると思う。

生涯学習スポーツ課長

江戸川河川敷グラウンドについては、新宿区に無いため、まだ認知度が低いと思う。区としても今後周知を徹底していきたい。また調査の中で認知度についての項目を入れるかどうかについては検討させていただく。利用している施設についての質問で、どんな施設が利用されていて、また逆にどんな施設が利用されていないのか、その施設を利用しているのはどんな方なのか、そのあたりを把握はできると思っている。

事務局

本日欠席の障害者連絡協議会の藤原委員から2点ご意見をいただいているので、紹介と区から回答をさせていただく。

①パラスポーツに関する設問が少なく、健常者目線での質問内容なので、障害児者の実態が埋もれてしまう心配がある。障害者福祉課では昨年度、障害者生活実態調査を行っているので、調査対象の選出などを関係部署に協力していただくなどして、障害児者に対する調査も、子ども・施設利用者・団体向けなどと同じように別紙で作成していただくことは難しいか。

生涯学習スポーツ課長

今回の調査については、対象を障害者に限定して行う予定はないが、先ほどの藤原委員のご意見にもあるとおり、令和5年3月に新宿区障害者生活実態調査を実施している。新宿区としては実行計画の中でスポーツ実施率の目標値を定めて区政モニター調査で確認しているが、障害者のスポーツ実施率については調査したことがなかった。そのため新宿区障害者生活実態調査を行うにあたり、設問を追加している。また、障害者の方のスポーツに関する詳細な調査については、東京都で令和3年度、4年度に障害者のスポーツに関する意識調査を行っており、かなり詳細な調査結果となっている。区の施策としては、障害者の方のスポーツ実施率向上、スポーツの機会の提供として、現行のスポーツ環境整備方針に記載しており、改訂版のスポーツ環境整備方針でも、重要な部分だと考えている。東京都の調査結果等を参考にしながら、スポーツ環境整備方針の中に定めていきたいと考えている。今回の調査については、現行の調査で進めさせていただきたい。

事務局

②アンケートの選択肢の中にeスポーツやアーバンスポーツを入れてはどうか。eスポーツは今年に入り、IOC主催の国際大会や、高校の部活動ではインターハイが行なわれている。また、スケートボードはオリンピックの東京大会で金メダルを取ったこともあり、若者の間で人気のスポーツの一つになっている。新しいスポーツ競技を「その他」に埋もれさせてしまうのではなく、具体的な数字で把握しておくことも必要ではないか。

事務局

このご意見について、できればこの場でeスポーツについてご意見をいただきたい。なお、「eスポーツ」とは、「ゲーム機を介しての競技」と定義付けられている。

南委員

いろいろな考えがあると思うが、この調査においては「運動やスポーツ」の定義として記載があるように、身体活動を伴うことが重要かと思う。eスポーツもスポーツであると思うが、その意味での身体活動が少なめかなと思ったので、今回の調査から外す方がいいかと個人的には感じた。

区中学校 PTA 協議会

インドア派の子どもにとっては、ゲームを介したものでしか体を動かしていないという話も聞くことがある。中学2年生の子どもを対象に今回調査を行った場合に、コロナ感染のリスクから、外で運動して誰かと交わることに、恐怖を抱えている子どもたちもまだいる。家で一人でゲーム機を使ってでもスポーツができればと考えている親御さんもいる。個人的な気持ちとしては半々で、やはり外で体を動かしたり、みんなで一緒に行うことが、運動の素晴らしさでもある。ただ、今のこの状況だと、eスポーツも取り入れてもいいかと思っている。

下村委員

現状のスポーツ環境を調査するにあたり、もちろん体を動かすことも大切だが、運動の定義のところ

で、運動することで自分らしくいられたり、気持ちが前に向けたりということも、運動の素晴らしさの部分である。その意味ではeスポーツも、体が不自由な子にとっては、それが良いスポーツになるかもしれない。体を動かさず動かさないとは別に、現状を知るという意味で、eスポーツは入れてみる価値があるのかなと思う。子ども自身も、これなら答えたいと思うような、質問に対して前向きになってくれる一つの設問になるかと思う。

学識経験者コメント

eスポーツの件については、定義がそれぞれで違うため難しいと思う。そのため、入れるのであれば、きちんと定義づけが必要である。まったく体を動かさず手だけ動かすものもあれば、体をすごく動かすeスポーツもある。今後はメタバースだとか、そういうものがどんどん良くなっていけば、さらに環境が整ってくることも考えられる。一度事務局の方に引き取っていただき、一項目であれば入れることが大丈夫なのであれば、入れることはやぶさかではないと、皆さんの意見を聞いて感じた。しかしながら、eスポーツだったら何でも良いとしてしまうと、この調査の趣旨から外れてしまうと思うので、そこはよくご検討したほうが良い。

もう一点、この調査を通じて、今後スポーツ環境整備方針を立てていくと思うが、私がこの調査票を見て感じたことは、新宿区民でスポーツをたくさんやったり、一生懸命取り組んでいるひとは、ウェルビーイングがすごく高い、といった提示が最初にあるといいと思った。現在の項目で言うと、問7「健康状態について」の質問があるので、一生懸命スポーツをしている人は主観的健康感が高いというところはおさえられるが、例えば幸福感であったり、生活満足度であったり、ウェルビーイングというカテゴリーで表現できるような要素が入っていると良い。もちろん横断の調査なので、ウェルビーイングが高い人がスポーツをやっているということもあるが、そこは関係があるということを前提として、けれどももしっかり調べてみると、とは言えスポーツをやっている人はそう多くないよね、日常生活の中で運動できている人が多くないよね、というデータが出る。だからこそ、できていない人、あるいはできている人は、何か違いがあるのだろうかということを、この調査で解き明かしていき、スポーツ環境整備方針に繋げて行くというストーリーなのではないかと私自身は思っている。

もう一点、前回調査と今回調査で経年変化を見たいという意図もあると思うので、なかなか設問を省きにくいこともあるかと思うが、例えば、18歳以上の調査で問10と問31は比較的近い項目になるため、どちらかを省いてもよいと感じた。また、問12のソーシャルサポートに関する項目は大事だと思うが、例えば誰かと一緒に運動スポーツやりますか？とか、取り組みにあたって指導者がなかなかいないとか、ソーシャルサポートに関わるような項目は、たくさん散りばめられているため、この大きなスペースを取って調査をするよりは、最初にお話させていただいた単項目で聞けるものを入れておくといいのではないかと、調査票を見て感じた。

やはりウェルビーイングを高く維持するために運動・スポーツがよいのだということを前提に、ただできてない、だからこそスポーツ環境整備方針をしっかり構築していかなくちゃいけないというロジックの方が良いと感じた。

(5) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換(要旨) <次第4>

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

先日、体育協会の総会があり、今後「体育協会」から「スポーツ協会」に変わることで決定した。現在、40団体ほど加盟しており、ほぼすべてのスポーツは網羅しているが、eスポーツはまだ加盟していない。ただ、eスポーツ協会があつて、体育協会への加盟希望があれば、多分OKを出すのではないかと思う。ほぼ全部のスポーツの関係団体が加盟しているので、スポーツをやりたい人たちが何をやりたいか選ぶにあたって、うまく体育協会を使っただけだと思つている。先ほど村上委員からスポーツ施設の偏りについてお話があつたが、ようやく四谷地域に四谷スポーツスクエアができた状況。いろいろな所でいろいろなスポーツができる環境を作つていけたらと思つている。また、サッカー協会のクリアソン新宿さんが公式戦のホームグラウンドがない状況がある。候補地である、東京都が管轄している戸山公園の運動場をいろいろな競技ができる施設として作れないか、昔から新宿区が働きかけているが、なかなか東京都との調整が進まない。お金の問題もあると思うが、せつかくの広い場所があるので、ぜひそういったスポーツの環境という面で積極的にこれからもまた、皆さんと取り組んでいけたらと思つている。

・区町会連合会

今年度のコミュニティスポーツ大会について、新宿未来創造財団から説明があり、町会連合会としては各地区の実行委員と協力して参加者の募集などを行う。気軽にスポーツに参加できる機会であり、町会としてもスポーツの裾野を広げられるよう期待している。ぜひ地区大会を盛り上げて代表として中央大会に行ってもらいたい。

本日、スポーツ推進委員協議会の橋本さんが欠席のため、宣伝をさせていただく。8月27日にスポーツ推進委員協議会主催の「ボッチャ小学生カップ」を開催する予定。現在、小学校に参加者募集をかけているところ。初めての大会となるため、ぜひ成功させたいと思つており、多くの小学生の参加を望んでいる。皆さんにもご協力お願いしたい。

・区高齢者クラブ連合会

高齢者クラブは、各クラブではボッチャや吹き矢をやったりしているが、地域性が狭いところからなかなか発展しないため、高齢者クラブとしては、今のところは今後もグラウンドゴルフと輪投げを中心にやっつていこうと思つている。ただスポーツ部の中ではボッチャをやつたほうがいいのかという意見もある。また、団体でやるよりも少人数を集めて、各クラブでできる人だけがやればいいのかという意見も出ており、今後のやり方をどう考えるかが課題である。

・下村委員

新宿区でモルック協会をやらせていただいております、最近、東戸山やチャレスポでスポーツによる交流の促進と健康水準の改善を目指して活動をしている。モルックは、体力はさほどいらず、ゲーム性があることから、高齢の方も結構楽しんでいただけた。やはり少人数でチームを組んでやっつていくと、そこで会話が広がっていく。年齢を問わず、小学生から高齢の方まで楽しめる、スポーツの大切なところだ

など感じている。多くの方に知っていただき、楽しみながら、体を動かすということと、スポーツによって会話が広がっていくということを応援していけたらと思っている。

・南委員

私個人としては、ずっと運動ができていなかったのですが、5月から新しくスポーツクラブに入った。大日本印刷さんの本社のすぐそばに、社員向けの体育館があり、区民の皆さんに格安で開放している。ご近所の方に勧められていたところ。コロナの間、ずっと何年間か休止していたが、4月から再開したため、週に一回ではあるが、徐々に体を動かし始めたというのが最近の活動である。

・スポーツ関連事業者

会社としての取り組みを簡単にご報告する。私どもが目指す姿として、世界の人々の心身の健康とスポーツができる環境を守ること、誰もが一生涯運動スポーツを通じて心も体も満たされるライフスタイルの創造を目指している。大きく分類すると二つ。まずはスポーツを通じて青少年の育成をすること、2つ目は製品を通じた環境対策である。1つ目の青少年の育成に関しては、東日本大震災で被災された方々への支援として19歳になるまで運動用品の提供等を続けている。また、国際NPOと協力し、困難な状況に置かれた子どもたちを対象としたプログラムの実施。そして子どもたちがスポーツを好きになるような場を設けて継続的に運動ができる場等を提供すること。2つ目の製品に関しては、現状新商品の90%以上はリサイクル品を活用している。また、持続可能な天然素材の活用促進、全体で脱炭素社会に向けた循環型ビジネスの提供を行っている。最後に、熱中症等々の気候変動に関する取り組みに関しては、しっかりと具体的な対策を練りながら取り組んでいる。

・区中学校 PTA 協議会

前回報告させていただいた、中体連のテニス大会については前進があり、拍手はOKになった。先日の団体戦が行われた時に、円陣を組んでみんなで気合を入れている姿に対して、応援のエールと拍手がある光景に泣いている親御さんもいた。拍手ひとつでも、何かを表現するということが見ている人もプレイをする人も本当に力になるのだと感じることができた。

また、区中学校PTA協議会の取り組みとしては、子どもたちのスポーツの意識を高めたい。楽しみながらスポーツができる環境を作っていきたい。という思いから、中学校10校が、一つの場所に集まり、みんなでスポーツを楽しめるようなことを検討している。その際はぜひとも地域の方、レクリエーション協会の皆様、体育協会の皆様にも、中学生だけで行うのではなく、学校対抗でそこに地域が入っていただくと盛り上がるのではないかと考えている。障害のある子も一緒になってみんなで取り組めて楽しめるようなスポーツの場となるよう、現在進めている。

・区小学校 PTA 連絡会

区小学校PTA連絡会としては、夢事業という取り組みがあり、西新宿小学校が抽選に当選し、6月27日にFC東京さんの学校訪問としてサッカー教室が開催され、選手もいっぱい来た。私自身は当日行けなかったが、身近でプロの選手に触れることはとても良い経験になったと思う。また夏休みには、ヤクルトスワローズさんの協力で毎年やっているが、親子ナイター観戦というイベントで親御さんは1500

円、子ども 500 円で、8 月 19 日・20 日に開催される。それから秋に向けて、クリアソン新宿さん、FC 東京さんのサッカー観戦も予定されている。西新宿小学校の活動としては、6 月 29 日 4 年生と 5 年生が車椅子ラグビーの観戦に行った。パラスポーツとしては、ボッチャの出前事業などがあるが、パラスポーツへ理解が深まったと思う。また西新宿小学校の校長がいろいろな提案をされており、クラブ活動では、コーチを NPO から招いて、外部の活動と一緒にやっている。西新宿小は 334 名の在校生がいるが、160 人ぐらい参加している。放課後の月曜日から金曜日の間で、クラブが 8 つあり、文化系では音楽、デザイン、演劇がある。スポーツ系ではサッカー、ラグビー、バスケット、ダンス。1 つのクラブに参加すると 2000 円で、あといくつ参加しても 5000 円。保護者目線で言うと、費用はかかってしまうが、送り迎えがいらないという点が、負担が少なく、一番の利点だと思う。PTA でいろいろなことをやっても、なかなか今の保護者の皆さんに響くのが難しい。その昔、加入率は 100%だったと思うが、今いろいろなことを頑張っても 93%。コロナの間で PTA に入らなくていいと考える人たちが増えた。在校生同士の関係性も薄くなってしまっていたところ、この校長の取り組みがヒットしている。我々は、校長が変わった後も、継続できるように今から地域の方、スポーツ推進委員協議会の方たちにご協力をお願いしていきたいと思っている。

また個人的な話で、先ほどウェルビーイングの話があったが、私自身は子どものおかげでウェルビーイングはすごく感じているのだが、今回の資料が事前に届いて読んでいたときに、自分では運動を何もしていないと気付いた。それもあり、減量を始めており、もう少し体重が落ちたらスポーツを自分でも始めたいと思っている。

・区レクリエーション協会

新宿区レクリエーション協会は、6 月 18 日にアイスブレイキングの講習会、遊びの達人養成講座を行った。これは会員だけでなく、広く区民の方、児童館や福祉施設など働いている方、いろんな分野の方が集まって、うまく人とコミュニケーションを取るための勉強会であった。その日の午前中に新宿区レクリエーション協会の会員を対象にした研修で、今回は太極拳とフォークダンスを行った。指導者の方に来ていただいて、会員が講習を受けたが、太極拳は、その歴史からお話ししていただいたため、みんなが納得してぜひ今度からレクリエーションの講習会に取り入れたい種目となった。またフォークダンスも一見難しそうに思われるが、歩くようなフォークダンス、誰でもができるフォークダンスを普及していけたら、もっと皆さんに愛されるのではないかとということで、秋に都立の支援学校を会場にして、障害のある人もない人も参加できるスポーツ教室を開催するが、その時にフォークダンスを取り入れることにした。そんな感じでいろいろなスポーツを掘り下げながらやって行きたいと思っている。

・学識経験者

テニス大会については、応援ができるようになったということで何より。応援は力になると私も実感しているので、引き続き正常な応援ができるようになればよいと思う。また、武内委員がおっしゃったように、今回の調査をすることは、その人に気付かせるという大きな役割があると考えている。私たちが大学で、スポーツをやっているでもそれ以外の時間座っていると寿命が縮む、という座りすぎが良くないという研究をしているので、いかに座っている時間が長いことに気付かされたというようなことが、よく新聞に投書されたりする。改めてこのスポーツに関わることを自分で振り返ることが、まさにその

こと自身がスポーツ振興に役立つことをご意見で感じた。

もう一つ、e スポーツという話が今日議論されたが、ゆるスポーツというものもご存じの方がいると思う。実は私のゼミの学生が、ゆるスポーツ協会で、いろいろな新しいスポーツの開発などを行っている。すごく元気で、激しいスポーツができる人はいいが、そうではない方のスポーツの入り口として着目して行くことも今後は大事だと思っている。ゆるスポーツ以外にも、いろいろ入り口になるようなスポーツはあると思うので、そういうところにも着目して行く必要があると思う。

また、新宿区の大学の機能も上手に使っていくことも良いと思う。私も普段は所沢キャンパスにいるが、メインキャンパスが新宿区なので、スポーツのボランティアを、その体育学部の学生さんたちがやるとか、障害者の伴走などいろいろな事があると思う。特にコロナになってからそういう繋がりが消失してしまい、機会を失っていることもあると思うので、積極的に問い合わせいただいたらいいかと感じた。もし必要であれば、仲介をすることもできるため、そういう形でどんどん新宿区のスポーツが盛んになるといいと思う。

イ 行政からの報告（報告のある委員のみ）

・生涯学習スポーツ課

調査票に関して、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、再検討したものを発送して行きたいと思っている。またe スポーツについては、なかなか難しい議論がされているところかと思うので、この調査票に載せていくのかどうか、内部で検討させていただきたい。ウェルビーイングについては、スポーツをすることによってどんな効果があるのか、実際にスポーツをしている人に対しては、健康だけでなく、その喜びであるとか、幸福感であるとか、その部分も見て行きたいと思う。そういった項目については追加を検討していきたい。

本日チラシを配布しているが、7月23日に新宿区コズミックスポーツセンターで車いすハンドボールの全国大会が行われる。当日はいくつかのカップがあり大会自体は1日で行うが、その中で車いすハンドボール体験会を開催する。車いすハンドボールの競技自体、なかなか関東では見る機会が少なく、かなり迫力のあるスポーツなので、ぜひ多くの方に触れていただく良い機会になればと思う。

(5) その他 次第5

特になし

(6) 閉会

事務局から連絡

スポーツ環境調査の調査票は、確定版を8月下旬に送付するので、ご確認いただきたい。

次回の第22回のスポーツ環境会議は、令和6年2月ごろ予定。詳細が決まり次第、通知を送付する。次回は調査結果をご報告させていただく予定。